

第7日

令和8年6月17日（水）

午前9時30分開議

○議長（小島清人君） 皆様、おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

なお、本日の出席議員は17名で、会議は成立いたします。

議事日程表をお開きください。本日の議事日程については、タブレットに掲載のとおりであります。御了承願います。

一般質問通告書をお開きください。

それでは、日程に従い、16日に引き続き一般質問を行います。

それでは、14番柴山恭子議員の質問を許可します。14番柴山恭子議員。

（14番柴山恭子君登壇）

○14番（柴山恭子君） 皆様、おはようございます。本日は2日目、1番、質問に立たせていただきます。傍聴の皆様、御来場いただきありがとうございます。私の一般質問にはいつも誰も聞いてくれませんので、今日は一段と気合を入れて質問をしたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

そして市長、就任、誠におめでとうございませう。私たちは同期として約20年間、市議会議員として共に活動してまいりました。いろいろなことを思い出します。県議会への出馬を断念されたこと、市長選への思い、川添遺跡での環濠清掃の一生懸命さ、そして何より豪雨災害の折、議長として天皇両陛下を迎えられた穏やかな姿。あのときの姿は今思うと涙が出てきそうです。

私は、市長と違い、質問が雑ですし、方言しか使いきりませんが、市長の質問はとてもいつも紳土的でありました。そして今回の選挙、私はSNSなど見ませんが、あのやり方に腹が立ちました。市長を信頼していただけに、何か裏切られたような気持ちでした。今日まで一言も言葉を交わしませんでした。顔を見るのも嫌だったからです。だからこそ今回の質問だけは、市長御自身の言葉で答弁していただきたいと思っております。

そして、私も今回が終われば、共に朝倉市の活性化に向かって頑張っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

（14番柴山恭子君降壇）

○議長（小島清人君） 14番柴山恭子議員。

○14番（柴山恭子君） まず、市長が就任挨拶で言われた「常に市民目線で各部署で協力し合い、失敗を恐れない」という理念は、行政改革を進める上で重要な視点であると受け止めております。

そこで、市民目線を掲げる以上、市民の声を直接受け止める姿勢が欠かせません。市長自身が現場に足を運び、市民の声を政策に反映する仕組みをどのように具体化されようと

思っているのかをお尋ねいたします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） お答えいたします。

まず、冒頭の御挨拶にありましたように、私と柴山議員と浅尾議員は同期でございまして、挨拶を聞いておりましたら、よく居酒屋でかんかんがくがく話をしたなど、懐かしいなと思っております。ただし、今日は真摯にお答えさせていただきたいと思っています。

まず、市民の声を聞き、たくさんの声を聞いて、その中から私は選択と集中、よいものを取り入れ、朝倉の未来の方向性を私は示す責任がありますので、それを示したいと思っております。できるだけ現場に通いたいと思っています。市民の皆様の声を聞きたいと思っています。

それはなぜかという、現場に、市民の皆様の生活の中に、市民の生活、朝倉市の未来をよくする答えがあるからと感じております。私は、これまで議員として、議会の側に立ち、市政をチェックし、提案をする立場でした。市長となった今、最も大きく変わったことは、自分で決めて、その責任を負うという立場になったということです。問いかける側から答えを出す側に回りました。私自身、市長選という大きなことに挑戦しましたが、これからも失敗を恐れず挑戦を続けていきたいと思っております。

これから私の挑戦は私一人だけのものではなく、職員と市民の皆様とともに、議会の皆様とともに、結果に責任を持って前へ進める挑戦です。これが私の今までの一番の挑戦だと思っております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 私はそんなことを聞いたかったわけではない。挑戦するっち書いとるっちゃけん、そりやするでしょう。でも、どんな挑戦をなさるのか、それを聞いたかったんです。これはここで、また次の出前型情報公開のこともありますので、そのときお伝えします。

じゃあその次に、失敗を恐れない組織をつくるには人材育成が最も重要です。「やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ」という言葉は、人材育成の本質を表すものとして知られております。この考え方を市役所運営や職員育成にどのように生かしていくのか、また市長御自身の経験に基づく人材育成の考え方があれば併せてお聞かせください。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 私は、風通しのよい組織を目指したいと思っております。言いたいことを言い合える関係、それを大事にしたいと思っております。そして、予定調和ではなくて、言いたいことを言って、それぞれの個性と個性がぶつかり合って、そのことによって新しいものが生まれる。よりよいものが生まれると思っております。私はそういった環境を用意したいと思っています。市内にもいろんな団体がありますが、そういう風が

吹いたらいいなと思ってます。そして、その環境を整える組織を後押しするのが私の役目だと思っています。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 常に具体策が出てこないんですよ。それをするにはどうでしょうか。それは仕方がないでしょう、市長に就任されたばかりだから。でも、具体策を考えてほしい。

例えば、私は、職人に朝必ず挨拶をします。このように700人も800人もおる人ではありませんが、たかが20人ぐらいの職人ではありますが、朝、顔を見ると必ず挨拶をします。それも大きな声です。職人が私よりももっと大きな声で挨拶をするのを私は待っております。職人よりも少し早く出勤すれば、それができるのです。それが私の人材育成の始まりです。私が市長であれば、私は必ず市役所の前に立ち、少しだけ前に出て職員たちに挨拶をしたいと思います。3日もあれば全員の職員に挨拶ができるでしょう。そして、それが市長と職員のつながりになると、私ならそう答弁いたします。いいですか。あなたはいつも具体性——今までの一般質問——ごめんごめん、あなたの癖が。一般質問を聞いても分かるように、本の中から題材を取り、その中からどうしますかこうしますかというような一般質問が多かったような気がします。——いや、ほかのこともありました。だから、もっと具体的に、俺はこれをしたいんだというような具体策を出してほしいと私は思っております。よろしくお願いいたします。

次に、若い力の流出をストップとありました。シビックプライドの醸成を進め、地価の安さや福岡都市圏に近い強みを掲げてありますが、これは既に筑前町が実際に成果を出している領域です。筑前町は地価も安く、人口も増えています。勝負すべきは筑前町の後追いではなく、差別化戦略です。また、市民が誇りを持つのは、住んでよかったと実感が積み重なった後です。生活の質の向上、そして人口増、それにより、町についての思いや誇りにつながると私は感じます。市長は、シビックプライドが先にあるような感覚を受けましたので、考えと逆のような気がいたします。

私にとって、朝倉市は住みよい町です。そして最大の魅力の一つは水の豊かさです。筑前町が住宅都市として発展しているのに対し、山からの清らかな水、湧水、河川の豊かさ、農業を支える水資源、生活に直結する水の質など、自然の恵みが豊かなところです。朝倉市独自の強みをどう磨き、どう発信し、若い世代に選ばれるまちにしていけるのかを尋ねます。後追いはいかんよ、後追いは。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 前の質問のことでちょっと答えさせていただきます。

私は、職員の皆さんに北極星を示すというふうに言っています。私は具体的な戦略を立てる前に、まず理念が大事という考え方の人間です。こういう理念の下にやりましょうと。これが北極星です。あそこを目指すんですという、その北極星を示す、そういった考え方

をする人間です。ですから、どうしてもほんわかしているのかもしれませんが、朝倉市の活力を取り戻す、それから若返った発想を持ちます。朝倉市にマジになって欲しい。そういったことを示したいというふうに考えています。

それで私が示したいのは、シビックプライド、非常に分かりづらい横文字で申し訳ないと思っているんですけども、簡単に言うと、朝倉市のためにマジになってくれる人、マジに朝倉市のことを思う人、マジに朝倉市のために動く人、これを増やしていきたいと思っています。これを私が市長としてところどころで言っていただければ、それが北極星になって方向性を決めるのではないかと考えています。そして、まねはいかんというふうに柴山議員は言われましたけれども、私は2番目戦略を取りたいと思っています。徹底的にいいところのまねをする。まねをしてシェアを取っていく。1番目に走っているところは、それなりの研究とか、最初にやるというコストがかかっていますけれども、まねをすることによって、安いコストでシェアを取っていただけますので、いいところを徹底的にまねをしていきたいと思っています。そしてシェアを取っていききたいと思っています。まねというのは学ぶということにつながりますので、まずは筑前のいいところ、それをまねて、朝倉市の独自性を後から出していききたいと思っています。

そして、朝倉市の強みをどうやって出していくのか。それは、朝倉市の眠っている資産、観光であったりとか、そういったいいところがたくさんありますので、その自信をもう一度市民の皆様に取り戻していただきたい。もう一度やろうと思う気持ちを取り戻していただきたい。職員の皆様にももう一度一生懸命になってほしい。そういった考えを私自身が訴えていって、職員の皆様、市民の皆様に声をかけて、いろんなアイデアを頂いて、それから決めていきたいというふうに考えております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 昔は朝倉市は豊かだったそうです。ハゼという特産物があつたからです。そして、このハゼでつくられる和ろうそくの芯づくりも盛んで、おばあちゃまや奥様方の副職として大量につくられ、京都へ送られていたそうです。大阪の佐野屋橋は、甘木の豪商、佐野屋さんが架けた橋だとも聞いております。今、何を特産物とするかは分かりませんが、何かをやっぱり探すべきだと思います。

それから、今、市長が言われた、筑前町のまねをしよう、2番手になろうという答弁がありますが、私は筑前町を見ていると、運動施設や教育がしっかりしていると思います。そして、子育て支援に力を入れている自治体としても知られています。また、筑紫野市や小郡市に隣接しており、福岡都市圏の延長上として認識されやすく、地価が安く、家が建てやすいという最大の魅力があります。そして、私はA I 君に筑前町のよさをちょっとだけお尋ねしました。すると、地価が安いとともに、これから筑前町の地価は上がっていくというような答えが返ってきました。うちは今、筑前町に比べてずっと高いのですが、筑前町にこれから住もうとする人は、自分の財産の価値がもっともっと上がっていると思い

ながら、あそこに家を建てるのだと思います。筑前町の最大の欠点は何だと思われますか。——分からんよね、急に言うと。何と水がない、水が少ない。うちの最大の特色の水です。そこら辺を考えて、理念が好きな人だから、頑張ってください。

次に、本市の産業を支えているのは、地域に根差した多くの中小企業や小規模事業者です。長年にわたり地域経済を支え、先代から受け継いだ信用や技術を守りながら事業を継続しているのです。人口減少や後継者不足が進む中、既存企業をいかに維持・発展させていくかは、地域経済の活性化や雇用確保の面からも重要な課題となります。

市長、地域企業の事業継承や経営支援をどのように考えておられるのか。また、中小企業や小規模事業者にも最も身近な支援機関である商工会議所や商工会との連携をどのように強化し、実効性のある支援体制を構築していくのかをお尋ねいたします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 商工会議所、商工会の方とお話をしますと、一番に言われますのは人手不足のことを言われますので、人手不足のサポートをしたいというふうに考えております。

朝倉には働く場がないと一般市民の方は言われる方が多いんですけれども、一方で、来手がないというふうに中小企業の皆様はおっしゃっている。それは、そこでミスマッチが起きているというふうに思っておりますので、中小企業の皆様を紹介する、特に就職前の若い人に紹介するような機会をつくるべきではないかと考えております。マッチングの仕組みというのを強化していかないといけないと考えております。

また、このマッチングの仕組みをきちとした上で、商工会議所の皆様がおっしゃるのは、今まで定期的に連絡をする機会がなかったので、定期的に市長部局と商工会議所の人たちが会って情報交換をしていきたいと思いますということを言われていますので、そこからまず始めたいと思っております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 本気で商工会議所や商工会との連携を取ろうと思っていच्छいますか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 本気で思っています。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） どのように。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 市は民間の活力を借りないと、なかなか朝倉市の発展は難しいと思いますので、そこはウィン・ウィンの関係になるように折り合いをつけていきたいと思っています。まずはコミュニケーションを取っていかないといけないと思っております。景気は気からだと思っております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） ウィン・ウィンとは。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） ウィン・ウィンとは、お互いに損得だけではない、両方とも得をするような、持続可能な関係性を保つことがウィン・ウィンの関係だと思っています。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） それではお尋ねしますが、商工会議所と商工会の予算の額が違うのはなぜでしょうか。私がお答えいたします。

もともと商工会議所は規模が大きく、ある程度の力を持っている商工業者が多いため、各議員から、ある程度のお金を頂き、それで運営していきます。商工会は、どちらかといえば規模が小さいところが多く、ある程度の税金を投入しなければ活動ができないというようなことを聞いておりますが、商工会でも非常に豊かなところもありますので、しっかり商工会議所や商工会との連携をしてほしい。なぜだ。昨日の質問の答弁にもありましたが——あ、これはごめん、私の意見を言わせてくださいね。商工会議所にいつも言います、会頭に。何でこげな暗いところ、行き止まりのところに商工会議所があるのかと。これでは若い女性たちが何か起業をしたいと相談に行っても一歩が出らんと。あんな一階の暗い誰もいないようなところに、どうして商工会議所があるのかということを、よく私は会頭に言います。私はこう思っています。皆さんは農商工連携ちゅうのよう言われます。でも果たして朝倉市はこの農商工連携がきちとなされているでありますでしょうか。私はいつも思うのです。会頭にも言います。商工会議所を農協の場所に持ってきてください。農協も分け渡してください。そして、あなたたちもあそこに少し大きな建物を建てて、あそこを駐車場にして、農商工連携の中心と市役所あり、商工会議所あり、農協ありの中でみんなで話し合って、朝倉市の活性化を進めるべきではないですかという話を私はよくします。なぜならば、あんまり遠いと疎遠になるでしょう。やっぱり近いところに何かあったほうがいいし、商工会議所は1階に誰でも入ったらお茶でも飲める。ちょっとした相談ができる。今度こんなお店を出したいのですが、どんな補助金がありますか。どうすれば私たちが起業をすることができますかという相談に行ける。農協がそこにあればですよ、1階はいろいろな農産物も置くことができる。市民の皆さんは農協の1階に行き、農協の皆さんとお話をし、こういうものが欲しいんですよ。わっ、朝倉市にはこういうものがあつたんですねと、いろいろ話をすることができますので、私は農商工連携のことは非常に大事だと思っております。

本来、農業の話をするつもりはなかったのですが、つついここでも農業の話をしました。農商工連携についての考えについても聞きます。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 柴山議員の今のお話は面白いと思います。距離がやはり近いと、

その分やはり心理的にも近くなりますので、たまたまかもしれませんけれども、朝倉市役所と農協というのは本当に近くなりましたので、あと商工会議所の方が来てくれたら本当にいいなと、私も思いますけれども、これは商工会議所の方が決めることです。ただ、農協のほうからも、定期的に連絡を取っていきましょうということは言われておりますので、そこは最終的には農商工で話し合いをしていって、やはり定期的に顔を合わせていけば、文殊の知恵ではないですけども、何かアイデアが出てくるかと思っております。今まで以上にそうやって協力をしていこうというようなマインドは高めていきたいと思っております。やはりやる気といいますか、それが大事なんではないかなと、チャレンジが大事というふうに考えております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） そうですよ。市長、あなたのやる気が大事なんです。人のやる気じゃなくて、あなたのやる気が大事。そして農商工連携が常にこの市役所を中心として行われるのであれば、市長はちょっと農協の1階に顔を出す、ちょっと商工会議所の1階に顔を出す、大体どげなこつがありようとやろうかと顔を出すことで顔も知られることができますし、活性化にもつながっていくと思いますので、ちょっとだけそのところをしっかりとやってほしいと思います。

ちょっと市長の中に、スタートアップ支援にも力を入れますというようなことがあったと思いますが、スタートアップって何やろうかと思って、これもA Iに聞きました。そして、「スタートアップとは、一般的な創業支援とは異なり、革新的な技術やビジネスモデルによって大きな成果を目指す企業です」と出てきました。そこで、本市はどのような分野や事業をスタートアップ支援の対象として想定しているのかお尋ねします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） まず最初に、先ほどの農商工連携の部分ですけども、私が足を運ぶということが出ましたけれども、柴山議員のフットワークのよさというのは見習わせていただきたいと思っております。マグロのようにずっと泳ぎ続けられる方ですので。ただ私も登庁するときに、朝倉の誰よりも働きますということを宣言させて登庁させていただきました、初登庁のところ。ですから働きたいと思っております。

そういった中で、創業支援、スタートアップの件なんですけれども、私は、スタートアップは旧杷木町役場、それから朝倉町役場、ここを念頭に置いて考えております。本当は企業誘致とかが一番いいと思うんですけども、いろいろ諸条件がありますので、パソコン1台で始められる仕事、そういったのが広告業であったりとか、データ処理であったりとか、デザイン関係であったりとか、こういったものをイメージしております。こういった業種が来てもらったらいいなと。これは若い人をイメージしています。若い方が杷木であったり、朝倉町の拠点となる旧役場、ここに来てくれれば、まちのにぎわいも取り戻せるし、若い人の定着にもつながるのではないかと思います。

大名小学校、福岡市の、ここを見学に行きまして、これと同じことができたらいいなと思っておりました。先ほど言った筑前ではないですけど、パクリです。まねをしたいと思っております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） それを聞きたい。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 私としては、大名小学校で2時間見学をただけなんですけれども、一応説明を聞いて、これ説明を聞くのは有料なんです。それで聞きましたところ、やはりまず箱物をきちっと用意してあげる、市のほうがですね。そしてやはり働きたくなるような雰囲気、それから合同でしょう、コワーキングスペースといいますか、そういったものが用意してありまして、いろいろメンターといいまして、そういった業種を指導するような方の人材もちゃんと当てはめてありました。朝倉市がそこまでできるかどうかは分からないんですけども、環境が整えば、せめて空間だけは用意ができないのかなと、そんなことを考えております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 空間だけで事が進めば何も問題はないでしょう。これを進めるとして、資金調達、販路開拓、人材確保などについて、どのような支援が市としてできると思われますか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 起業にはやはり厳しいと思います。10社起業をしたとしても何社生き残るか分かりません。ちょっと言葉を正確ではないかもしれませんが、「死の谷」といいまして、企業の方が必ず通る資金調達であつたりとか、販路拡大であつたりとかいうような谷が必ずあります。それを乗り越えてもらうためには、やはりこれはビジネスですから勝ち負けが必ずあるし、そんなに甘い世界ではありません。しかし、先ほど言いました、私が思いつくのは、商工会議所の皆様の後押しとかサポート、そういったメンターの力というのを借りるしかないのではないかなと思っております。

あと、銀行の借入れとかにつきましても、なかなか一般の方はそんなに詳しくありませんので、私はたまたま銀行の出身ですけども、資金調達のやり方なんかも、金融機関の皆様のところ、どこの銀行に行ったらどれくらい借りれるのとか、そういったことはガイドランスができるのではないかと考えております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） もちろん商工会議所もそのようなことをやっておりますし、市も商工会議所に向けてお金を預けているようなことがあっているような気がします。で、まあ、頑張ってください。何かうまくいくとはちょっと思えんけど。まあでも、そんなこと言ったら、物は前に進まんけん、スタートアップも頑張ってくださいと言うしか私には手

がない。

次に、教育方針についてお尋ねいたします。

市長は、保護者や教育関係者の声を直接聞く仕組みと言われましたが、どのような方法でこの仕組みをつくれますか。どのような方向ですか、この仕組みづくりとは。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 出前市長室の延長線上を考えております。まずは7月中にコミュニティを回らせていただきたいと思います。コミュニティを何度か回って、その後になると思うんですけれども、学校単位であったりとか、先生の声の聞いたりとか保護者の声を聞き、そういった、ある意味、聞く層を絞って、出前市長室という形で話を聞いてまいりたいと考えています。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） そこでお尋ねします。ある生徒が、サッカー同好会をつくってくださいと校長にお願いに行ったそうです。小学校でもやっており、高校でも続けるためには、中学校でも練習を続けたいという思いがあったようですが、校長は、市長へ言うようにと言われ、生徒は市長へのはがきを出し、市長は子どもに署名運動を勧められたそうですが、これは本当でしょうか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 署名運動を勧めたということはございません。ただ、私のところに4名の生徒様から手紙は来ました。サッカー場が欲しいという手紙——いや、あれは、サッカー部をつくってくださいという手紙を頂きました。これは文面がみんな違っておりまして、本当に自分の思いを込めて書いているんだというふうに思いまして、学校のほうに、ありがとうございますと、読みましたと、本人に伝えてくださいということだけはお伝えしております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 校長は、父兄にお願いするように言われたそうです。どうのことですか。意味が分からない。

学校で、今でいう地域クラブですよ——をつくるような——それは言われていませんよ。その父兄が言うには、校長から言われたのは、お父さん、お母さんに相談してやってもらったらというような。私は、校長から直接聞いたわけでもないし、この子どもたちのお母様から聞いた話ですから、どこまで確実とかは分かりませんが、市長の言われる保護者や教育関係者の声を直接聞く仕組みとは、このこと、ただ聞くだけでしょうか。これは、今まで市役所が一番嫌われていた、ここに来たら向こうに行ってください、向こうに行ったらこっちに行ってくださいというような、たらい回しの考え方と少しも変わらないと思いますが、大体どう考えてこういうような教育方針を立てられましたか。教育方針について書いてあります。もう一回。

保護者や教育関係者の声を直接聞く仕組みということを書いてありますので、私はこのことをこれにひっつけただけです。いいですか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） すみません。ちょっと質問の意味が、いま一つよく分かっていない部分もありますけれども、ただ、私はこのサッカー部をつくってくださいということは、結果としては、ただ聞くだけかもしれません。そんなに簡単にできるわけではありませんので。ただ、子どもが市長に、それは大人に言われて書いたのかもしれませんが、手紙を書ってくれたということは、私はうれしく思っておりますし、私はそれは心の中にどこか引っかかってまして、やっぱりいつかなえてあげたいなというふうに思っております。

市民の皆様が直接私のほうにいろんなことを言ってくれるのは、全ては残念ながらできないかもしれません。しかし、そういうふうに言って、自分が先ほど言いましたように、朝倉市のことにマジになって、こうしたいんだ、こういうふうにやりたいというふうに動くこと、アクションを起こすことは、私はいいことではないかなと思っております。

すみません、仕組み化としてはできていませんけれども、でも、市長が出前市長室という場所に行って、話を聞いて、何らかのやろうという努力をしたり、形になっていくんだと。そして自分の声が市政に反映されるんだと。そういう仕組みは、私は具体化していきたいというふうに思っておりますし、本当は聞いた話を100%全部できるのがいいんでしょうけれども、そこは限界がありますので、取捨選択して、私が最終的にはそしりを受けるかもしれませんけれども、必要だと思うものを選択してやっていきたいと思っています。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 分かりました。私が残念なのは、市長はマグロではありませんので、あまりどこでも出かけていくのは苦手かもしれませんが、なぜ校長先生に会われなかったかということです。または教育長に会って、甘中に——甘中って言うてもうた。

（笑声）中学校に行って、校長に何とかできませんかね、どうやったらこれができるかね、それくらいのことは言ってもいいでしょう。それは市長の掲げる理念とは全く違います。言い訳としか私には聞こえないんですが、市長、それは言い訳ですか。第一、市長が1年に1回、その人に会うか会わんかもしれんとに、そのときはこの子どもたちは卒業しておりますよ。子どもたちは市長に手紙を書くという、子どもたちにとっては大変だったと思うんですよ。これをしたことに対して、市長の動きはあまりにのんびりしている。それでは市政は前に進まないと思いますが、一事が万事そういうことであれば、朝倉市の活性化はどう考えても前には進みません。市長の明快なる答弁、前に向かって進む答弁をお願いします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） おっしゃるとおりだと思います。一事が万事ということがありま

して、柴山議員から改めてそういうふうに言われまして、私は甘中に行って足を運ぶべきだったと思っております。ただ、それができませんでしたのを、ここの部分は反省をしていきたいと思えます。私もマグロになるように頑張りたいと思えます。泳ぎ続けたいと思っております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 行ってください、ぜひ。どうやってできるかを、前々からサッカーのことについては、私もいろんな動きをしてきましたが、学校側としては、サッカーをすると野球が潰れるとかいう言い方をします。昔、野球部を入れるときは、野球部を入れるとほかのクラブチームが潰れるとか、そんな言い方を、できない言い方を行政も学校もするような気がします。

市長、でもあなたは違うでしょう。何とか前に進みたい、何とか活性化に向かって、みんなと力を合わせて挑戦したいというのが、あなたの考え方だと思いますので、この件に関してどうなさるかをお伺いします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） まずは、甘木中学校に行って現場を確認といいますか、意見を聞くのが私の次すべきことだと思います。そして、サッカー、今ワールドカップやってますけれども、人気スポーツになりました。ですから、サッカー部が欲しいというのは正直な気持ちだと思いますし、時代に合っていると思いますので、考えていかないといけないことかなと思っております。

ちょっと教育長を差し置いて私が勝手にいろいろ申し上げましたけども、でも、子どもが自分の思いを政治の場面に、市長に手紙を書くと、この気持ちだけは大切にしていきたいと思います。

○議長（小島清人君） 14番柴山委員。

○14番（柴山恭子君） それをもっと早く気づいてほしかった。そうすればこんな嫌味をたらたらと私は市長に向かって言わなくて済んだんです。職員の皆様も答弁の必要は一切ありませんが、こういうことに関して前向きに前向きに進めてください。決して市民の皆様が役所に来たときに、ワンストップですから、今は待たせないこと。あっちやりこっちやりしないこと。自分の考えだけで市民の皆様になにか言うことだけはやめてほしいと思います。いいですか。代表して。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） はい。

○議長（小島清人君） 14番柴山委員。

○14番（柴山恭子君） 出前情報公開の徹底推進についてお尋ねします。

私はこの方針は市民に開かれた市政を示す上で非常に重要な取組であり、高く評価をしています。市長がずらーっといろいろ並べてありますが、できもんことをいろいろ言う

てとも思いましたし、でもこれだけではできるんじゃないかな、大事なことはないかなとつくづく思い、これだけは非常に高く評価をいたしました。

行政情報というものは、市民が役所へ出向いて得るものではなく、行政自らが地域へ出向き、分かりやすく伝える姿勢が必要です。市長自身が地域に足を運び、市民と直接対話する機会を積極的に設けることが重要だと思います。

例えば、市内17コミュニティを年間を通して訪問し、地域の住民から市長が知りたい情報や課題を直接聞くとともに、市民が知りたい行政情報を自ら説明する。言わば、市長キャラバンのような取組も有効です。

また、市民にとって市長と直接対話できる機会は決して多くはありません。だからこそ、市民は大きな安心感と信頼関係につながるのです。

市長は、私は17コミュニティをずっと回れとは言いましたが、出前型情報公開をどのように具体化しようと考えておられるのか。また、市民との直接対話や現場主義についてどのような思いを持っておられるのかをお聞かせください。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 私は出前市長室ということで、まずはやはり朝倉市はコミュニティが非常にしっかりしていますので、一番に行くのはやはりコミュニティだろうというふうに考えております。コミュニティに行って、そのときには多分コミュニティの役員の皆様に会うのが主になるのかなというふうに思っているんですけども。まずそこから始めたいというふうに考えています。

そして、できるだけ少ない職員の数で行っていきまして、直接お話を聞きたいと思っています。どちらかという私が話を聞くほうが主になると思っています。まずは話を聞いて、皆様のニーズがどういったものがあるのか、どういった思いを持っていच्छやるのか。それをひと通り朝倉市全域を回ることによって見えてくるのではないかと考えております。

○議長（小島清人君） 14番柴山委員。

○14番（柴山恭子君） ぜひお願いします。でも、市民がいろいろなことを要望したり、それからいろいろな話をするのもそうですが、市民は行政の情報も欲しがっています。例えばうちのけやき通りの延長。私は皆さんに令和10年ぐらいにはできる予定ですよとは言っていますが、正確に市長の口から、あそこはこういう理由で遅れとります、皆さん一日も早くあそこが延長するように努力をしますから、というような行政情報は市民には伝わらないものです。こういうこと。それとか、私は何遍もけやき通りの根っこの話を何回も何回も要望しましたがなかなか思い通りはいきませんが、大変なんですよ。木は枯れてしまい、何とかしたいと思うけれどなかなか予算もかかりますね、とフランクに話すこともできます。そしてまた、実際にそれをすることもできますので、何としても出前市長室、私で言えば市長キャラバン隊の行動をよろしくお願いします。

次に、災害対策、豪雨対策についてお尋ねいたします。

市長は御存じかな。個別避難計画名簿作成が9月に区会長へ配付予定となっているそうですが、それでは出水期に間に合いません。一体どうなってますか。聞かんでええばいいからませんかっちはええばいいやろう。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 残念ながら、タイムスケジュールはまだ承知しておりません。申し訳ありません。

○議長（小島清人君） 14番柴山委員。

○14番（柴山恭子君） これは本当かどうか分かりません。またあげなことを言うてと職員の皆さんが言うかもしれないけれど、庁舎移転に伴い、事務作業その他がかさみ、遅れているというような話も聞きますし、これもA Iに聞きましたが、なかなか役所というところはこういう仕事をさっさとしないそうです。だから、どっちかと言えばどこの役所も9月ぐらいになるのが、これはうちに関しては違うかもしれませんが、A Iはそう答えました。

次に行きます。これはコミュニティがえらい大変なんです。誰をどこに迎えに行こう、誰が迎えに行く、前一般質問で言いましたが、迎えに行く人に保険をつけてくれ、何回も言ってやっとそれはできましたが。これは思うより以上に難しい。リアカーで行くとな、なら電気施設がいるようなえらい重症な人はどうするのかとかいろいろな話がコミュニティでは出ていますが、私はそういう人は迎えに行かないでええと言っております。そういう人は施設や病院にお願いしましょう、私たちのような素人がそのところまでは手は出せないというようなほうのことを言っています。

それで、コミュニティのあり方についてお尋ねしたいんです。朝倉市は合併から20年を迎えます。九州北部豪雨をはじめ、多くの災害を経験してきました。災害時の共助や避難支援の観点から、現在の地域コミュニティの規模や体制を検証し、必要な見直しを行うべきと考えますが、市長にお尋ねいたします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） これもいきなりの質問で非常に難しい質問なんです、確かに合理的な大きさというのはあると思います。やはり大小、立石はかなり大きなコミュニティですし、小さなコミュニティもあると思いますので、そこはどこかで見直すのが合理的だと考えています。ただ、人は情と理がありまして、理の部分ではそれが合理的だと思っておりますが情の部分があります。いろいろコミュニティの歴史もあると思いますので、そこはバランスをとってやっていかないと、うまくいくものもううまくいかないと思いますので、ここはタイミングをはかってやっていきたいかと思っております。

○議長（小島清人君） 14番柴山委員。

○14番（柴山恭子君） 市長、挑戦ですよ。そうでしょう。何かをやる挑戦。コミュニテ

ィができて大して経ちません。その前は振興会でありました。それで、やはりコミュニティの局長会もいろいろあってますでしょうし、皆さんのお話を聞きながら小さいコミュニティの大変さ、大きいコミュニティの大変さをよく聞かれて、コミュニティを今後どうし、朝倉市に生かしていくのかを考えることは、これは市長のお仕事ではないでしょうか。それこそ市長が、挑戦をし、コミュニティがきれいに出来上がればそれこそ大したものですが。この挑戦されますか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 挑戦します。どこかでやっていかないといけないことですので、チャレンジしていきたいというふうに考えています。私は先ほど言いましたようにコミュニティを回るといふふうに約束いたしましたので、その話題は出していつて、どういふところでお困りなのか、メリット、デメリットというのはいふに考えています。すみません、もう少しだけ話させてください。

先ほど情報の話が出ましたが、私は市民の皆様は大事な朝倉市の運命共同体、パートナーだと考えております。いろいろなお知恵を借りたいと考えております。ただ、あまりにも情報が、市が持っている情報と住民の皆様が持っている情報に差がありすぎますので、正当な話し合いがなかなか成り立たないというのは議員の時代から感じておりました。そこは、私が行政情報は市民のものだというのは同じ情報といいますか、同じ土俵の上に立てるようになっていただきたいと思いますので、情報の開示というのは積極的にやっていきたいというふうに思っております。コミュニティも大事なパートナーですので、お力を借りたいと思っております。

○議長（小島清人君） 14番柴山委員。

○14番（柴山恭子君） 九州北部豪雨では、ため池の決壊や土砂災害が発生し、市内各地で甚大な被害を受けました。私の住む立石にも多数のため池が存在し、中には水漏れなど老朽化が見受けられる箇所もあります。豪雨によるため池決壊や土砂災害についての対策を尋ねます。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） ため池に関しましてもそういった御心配のあるため池があるというのは承知しております。ただ、まだ詳細は分かっておりませんが、ただ、市民の皆様が心配をしているという事実はあるわけですから、そこに知らんぷりをするというのは市長として正しい姿ではないと考えておりますので、そこは関心を持ってことに当たっていききたいと思います。

それと、やはり朝倉市独自ではできないような形だと思いますので、関係部署と力を合わせながら、県・国の力を借りながらやっていきたいと考えております。

○議長（小島清人君） 14番柴山委員。

○14番（柴山恭子君） 何年か前、国に行ったときに、ため池はどんどん埋められて結構

ですという話を聞いたことがあります。ため池で災害が起きるのであれば、ため池の下に大きな土管を入れて、そして決壊しないような考え方もあるというようなところで、ため池を埋めるに当たっては予算は出しますというような話を国に行ったときに聞きました。市長がなさるべきは、下げたい頭も下げ、言いたくない言葉も出し、国と県に頭を下げ、予算をじゃんじゃん取ってくるのですが、この挑戦ができますか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 私は市民のためでしたらば泥水も飲みます。下げたくない頭も下げます。それが市民のためになるのであれば喜んで下げさせていただきます。

○議長（小島清人君） 14番柴山委員。

○14番（柴山恭子君） それを聞きたかった。何もせんでいいんですよ。どこも行かんでいい、どの会合にも行かんでいい、国に1年中おってもいい、金さえ取ってきてもらえれば。違う。本当ですよ。なぜかといえば、この朝倉市を何とかしようと思えばお金がいるんです。そうやってやっていってほしいと思います。時間があと10分ほどあります。これは質問しようかどうか非常に迷いましたが、時間がありますので、原稿も用意してはおりませんでしたが、外資系産業によるマンション計画についての思いについてお尋ねをいたします。市長、誰がマンション計画に賛成いたしましたか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） マンション計画に賛成をしたという方は、私は聞いたことがないです。

○議長（小島清人君） 14番柴山委員。

○14番（柴山恭子君） 渡辺議員でさえ反対とは言いませんでした。あのとき渡辺議員が懲罰を課されたのは、マンション建設に反対したからではなく、朝倉市に外国人が入ることによって、国民健康保険料が非常に高くなるのではないかというような心配。そして、国民保険料を外国人に対してあげるべきではないかというような質問が重なり、それを議長が止められ、そして懲罰までいったように覚えております。マンション計画について、知事も国会議員も市長も私たち市議会議員も、それから職員の皆様も、まるで朝倉市が賛成したかのようないろいろなことが流れましたが、私はそれは全くなかったと思っております。第一知らなかったと思います。よくは分かりませんが、あのマンション計画について議員の中で一番先に知ったのは私ではなかったのでしょうか。なぜかというと、立石の柿原地区に話があったからです。柿原地区の皆さんに聞きました。大体あれはどげんなつとんどでしょうかね。柿原地区の皆さんは言いました。1回話があつて、あとはおとんすんごとになえけえあれはもう消えたんじゃねえな。そういう話をされましたので、私もそうかなと思いながらそのまま放っておきましたら、今回のこういう事態になり、朝倉市役所も迷惑し、それから県もちょっと迷惑したような気がします。

この誰も賛成していないマンション計画について、なぜ市長は絶対反対。賛成していな

いでしょうが、誰も。それなのに、絶対反対と言われたのか、その真意が知りたいのですが。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 私がこの問題を聞きましたのは全員協議会の場所です。令和6年の8月だったと記憶しているんですが。この時です。その後、舛友さんという方が書いた本がございまして、ルンリィーという本がございます。その中に朝倉市のことを書いたくだりがあります。このルンリィーという本の中には1万戸、5万人の中国の方が来るという計画があるということが書かれています。私は朝倉市に好ましくないことが起きているなと思っておりました。不安だなと思っておりました。選挙戦が始まりまして、昨日お話ししましたように、選挙カーで回っているときに、あなたは賛成派なんですねということを随分たくさんの方から言われました。ですから、私は明確に反対であるということを候補者として訴えないといけないと思ひまして訴えさせていただきました。

○議長（小島清人君） 14番柴山委員。

○14番（柴山恭子君） 昨日も言われました。でも、私はある人からこういう話を聞きました。中島君があっちやらこっちやら1人立って誰も聞いていないのに演説をしよるばい。最初は何か頼りないなとは思ったけれど、何回もいろんなところを通るたびに顔がすっかりしてきたと。あれは大したもんばい、うちの元の区会長会長が言いました。私はすばらしいと思いました。そういうふうにも思ってもらえたのなら、市長選に立った1人として本望であると思ひましたからです。そして、もう1つは、お宅の地域の女性団体です。何度も頑張る。大体あの地域は選挙に強い地域ですから。でも、会合があるたびに何度も、私たちは頑張ると。とにかく頑張るから、恭子ちゃん、あんたも表面はこっちでも、1票は中島君に入れてもらえんやろうかというようなお願いをされました。私は女性局福岡県の局長です。自民党の中で決められた今度のことに関して、これはできんな、でも、妹に、あんた中島君の最初の立ち上げのとき、あそこに行ってやらんなどお願いしますと、ええばいと言ひましたのに忘れておりました。ちょっとがっかりしましたが、私は中島君の地区の皆さんの応援、そしてあなたがやられたいろいろなことに。SNSは別ですよ。あそこでも別。それは別。1人でやられたあの行動に対して多くの人の声があったということをお知らせしたかったんです。

今日は失礼のこともたくさん言ひました。傍聴席からも失礼なという声も上がりましたが、私は私の思ひを直接伝えたかったから。職員の皆さんが、議員、何の質問をされますか。いつもは質問をするのをそのまま渡しますが、今回は市長と2人でお話をしたい、あんたたちが答弁の必要はないということと言ひました。私は今日の質問を終え、市長とともにこの朝倉市活性化に向けて全力を尽くしてまいります。私にできることがあればどんどん言ってください。市長の言われるマグロですから。どこにでも行きます。もしかしたらソ連に行けと言えはソ連にも行くかもしれませんが。北朝鮮やソ連はちょっとえづいの

で行くことはできませんが、言ってもらえばできることはやりたいと思いますので、今後とも市長の理念に基づいて挑戦し、頑張り、この朝倉市の活性化に向けてやっていっていただきたいと思います。

これで私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（小島清人君） 14番柴山恭子議員の質問は終わりました。

暫時休憩いたします。午前10時50分から再開いたします。

午前10時40分休憩